

## どんな検定結果が出たの？

2008年度用高校歴史教科書検定において、文部科学省は次のように教科書の記述を変えさせました。

日本軍に「集団自決」を強いられたり、戦闘の邪魔になるとか、スパイ容疑をかけられて殺害された人も多く…

【三省堂 高校日本史 A の例】

検定の結果

追い詰められて「集団自決」した人や、戦闘の邪魔になるとかスパイ容疑を理由に殺害された人も多く…

検定後の文章では、日本軍の関与がなく、まるで住民が勝手に「集団自決」したようになっています。このように、5社7冊の全ての歴史教科書から日本軍の「集団自決」強制の記述が消されてしまいました。

## 軍命の有無をめぐる論争はあるの？

文科省は検定意見を出したもう1つの理由として、「軍命の有無をめぐる論争」を挙げています。沖縄戦では、「日本軍と住民は生きるも死ぬも運命をともにする（軍官民共生共死）」という方針のもとに、日本軍が住民に集団死（「集団自決」）の命令、手榴弾の配布などを行いました。

さらに、「米兵につかまったらひどい殺され方をする」など、米兵への恐怖心をうえつけて住民が捕虜になることを妨げることにより、住民が家族・知人同士で殺し合う集団死（「集団自決」）が引き起こされました。

沖縄戦研究は、集団死（「集団自決」）は日本軍の関与により起こったことを体験者の声などから証明してきました。

## 高校歴史教科書から

日本軍の「集団自決」強制の記述が増える？

文科省は検定意見を出した理由の1つとして、「沖縄戦集団自決冤罪訴訟」を挙げています。

そもそも、この「沖縄戦集団自決冤罪訴訟」とは、原告側が用いる呼び名です。判決も出ていない段階で一方の主張だけを参考にして、教科書の記述の修正を求めるなどおかしいと思いませんか？

今回の検定意見は公正さを欠く、恣意的なものだと言わざるを得ません。係争中の裁判を都合よく利用し、日本軍の関与によって多くの犠牲が引き起こされた事実をなかったことにしようという意図が垣間見えます。

かたよった文科省の検定意見

1982年の教科書検定でも、日本軍による住民虐殺の記述が削除されたことがありました。その時には、

沖縄県議会の全会一致の決議など、島ぐるみの抗議により、翌年の教科書から住民虐殺の記述が復活しました。

今回問題になっている高校歴史教科書も、検定後、実際に子ども達が手にする教科書ができるまでに修正を求めていくことは可能です。

体験者が重い口を開いて明らかになった沖縄戦の実相が教科書から消えてしまわないように、文部科学省に今回の検定意見の撤回・記述の復活を求めていく必要があります。

今からでも間に合います